



法華宗オリジナル
『ご家庭仏壇用 過去帳』・『宗章紋入り 過去帳台』
頒布中!



法華宗オリジナル『ご家庭仏壇用過去帳』は、表地の金襷に「鶴丸」の紋をデザインして織り込みました。

内容は、日蓮大聖人ご真筆を頂戴して謹製いたしました。特に扉の御曼荼羅は大本山鷲山寺に伝わるご本尊を拝写いたし、各日のお題目は大本山光長寺蔵ご本尊より謹んで抽出いたしました。また日蓮大聖人のご聖日や四大本山の開基聖人のご命日なども記して、今までにない法華宗のオリジナルとなっております。

『宗章紋入り過去帳台』は、法華宗宗章紋を二ヶ所に貼り付けた法華宗のオリジナルです。

檀信徒のみなさま、信心増進の一助として、是非、この機会にお求めください。

頒布追加料(送荷料込み)

◎『ご家庭仏壇用過去帳』	6寸(たて約18cm)	3,500円
	4.5寸(たて約14cm)	2,500円
	4寸(たて約12cm)	2,300円
◎『宗章紋入り過去帳台』	6寸用	6,500円
	4.5寸・4寸用	5,800円

お申込みは、法華宗教化センター宛へお申込み下さい。

教化リーフレット第58号（平成16年春彼岸号）の本文中に、法華宗の教えを十分に表現出来ていない箇所がありました。
法華宗の菩薩行は「下種」すなわち唱題のほかのなものでもありません。

寺院・教会名

有り難い

あ

がた

私たちは感謝の意を表す時に”ありがとう”という言葉を用います。ありがとうございます「有り難う」と書き「有り難い」つまり、有ることが稀でありますという意味を持つのです。

日蓮大聖人の御遺文に次のような一節があります。

「大海原の底に手足もひれもなく、千年に一度だけ海の上に浮かび上がる眼の不自由な亀が住んでいました。亀のおなかは焼けた鉄のように熱く、背中は雪の固まりのように冷たいのです。この亀が焼けたおなかを冷やし、凍つた背中を日光で温めるには、海の上に漂う赤梅檀の浮木を見つけ、浮木の穴に体を収めなければなりません。

しかし、はてしない大海原で、千年にたつた一度だけ浮かび上がる亀が、漂う小さな浮木を見つける可能性はどれ程あるのでしょうか。また、その浮木が赤梅檀であり、さらに体を収めるちょうどよい穴があるとなるといつたい・・・」と、物事の巡り会うことの難しさを、お経文の中の譬えを以て説かれています。

この譬えの中の亀は私たちであり、大海原は迷いの多いこの世界であり、赤梅檀の浮木はお釈迦さまの真の教えである『法華經』なのです。そして、ちょうどよい穴とは『法華經』の肝心である南無妙法蓮華経のお題目のことなのです。

大聖人は、人としてこの世に生まれ、『法華經』に巡り会い、南無妙法蓮華経とお唱えできることの有り難さをお説きになられているのです。有り難い、この言葉の意味を心して南無妙法蓮華経のお題目をお唱えしましょう。

